

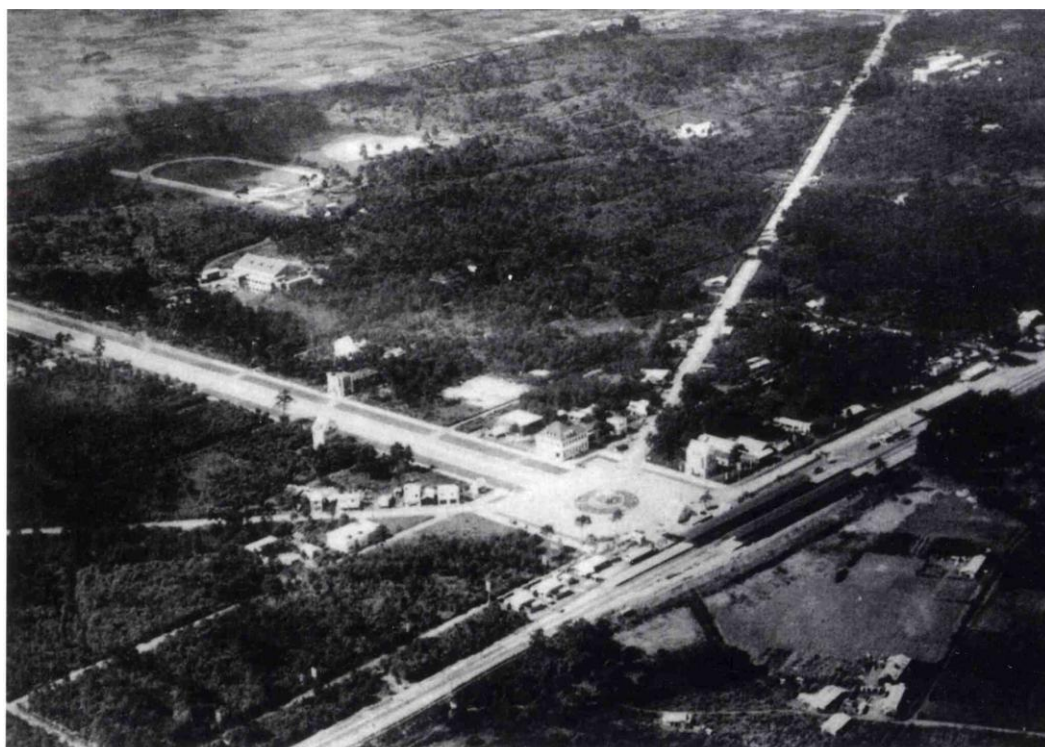
国立会中の会 50周年記念誌

私とくにたち 会報連載全5回中 第2回 2026年4月発行

(記念誌は今号が第2回となります。全5回となりますので本号含めて残り4回挟み込まれます。)

我が家の歴史 (中2丁目 川島 一矩)

我が家は国立の原住民と言えると思います。国立は昭和の初めのニュータウンですから。以前からの谷保の方々は古昔からの住民ですが。



昭和初期の国立駅周辺

私の祖父がニュータウン開発の仕事をしていた関係で、真っ先に住み込んだようです。以来、私の父、私、息子、孫と5代の住民です。

ニュータウンは関東大震災で神田一橋からの移転を検討していた一橋大学を誘致して大学町として出発しました。大学関係の子弟の行く小学校が必要になり、国立学園が設立されました。私の父はその2期生、私は30期生、息子は60何期生、孫は100期生くらいと兄弟を含めて10名近くがお世話になっています。

私が住む地域では、ニュータウンの分譲は300坪(1反)単位でしたので、我が家も最近まで広い敷地でした。私が子供のころは立派な道路が通っていましたが、家はまだ少なくて、ススキが道路にかぶっているようでした。我が家の隣地も雑木林のままで、どこまでが我が家の庭か判然としない状況でした。

我が家の庭には、祖父が植えたモミジがあり、100 才くらいの大木になっています。また大きな桜もあり、90 年位前に大学通りに皇太子（平成天皇）のお誕生を祝って植えられた桜と同じところに植えられたと勝手に想像しています。

国立の町もお庭の広い家が少なくなり寂しくなってきましたが、一橋大学をはじめとして学校が多いので、まだ緑の多い町として自慢できます。



昭和初期の川島家の様子。左端が川島さんのお父様
(写真:川島家提供)

我が家も最近敷地の半分を手放して、残念ながらそこに立っていた 100 年近い母屋を取り壊しました。残った敷地の半分に私の家が建っているのですが、そのまた半分に息子の家を建てたので、すっかりお庭が狭くなって、手入れは楽になりましたが、少し寂しくなりました。

それでも秋になって落ち葉の季節には沢山の落ち葉が舞って、うちの前の道路を掃いていると、通りかかる方から大変ですねと声をかけていただけます。大変かもしれませんが、落ち葉も秋の収穫と思い、庭に積んでおくの良い土になるし、CO₂ を固定して空気をきれいにしてくれると考えています。昔は道路の落ち葉で焚火をして焼き芋を焼いたこともありましたが、今ではご近所から焚火の煙に苦情が出るようですし、通りがかりの子供たちは煙の臭いを嫌ってよけて通ることもありましたので、すっかり嫌われ者になりました。

これからも国立が緑の多い町として続いていくことを願っています。

歩道橋問題

(中2丁目 刈田 貞子)

花の季節になると、多くの人が桜を眺めたり写真を撮ったりするのが、国立大学通りの歩道橋である。しかしこの季節を過ぎると、ここはあまり使われない。この歩道橋こそが、昭和 44 年から 45 年にかけて、街を二分して論争され全国的にもマスメディアや住民運動、地方自治体等に多大な影響を与えたいわゆる「歩道橋問題」のシンボルなのである。

【背景】

私がこのことに関わったのは、当時、2人の子供を第三小学校に通わせていたからである。昭和 40 年当時、国立は富士見台団地の完成に伴う人口増、42 年には中央自動車道の開通による市内の交通事情の変化、大学通りの青空駐車、国立駅南口前の駐輪問題等、長閑^{のどか}だった大学通りが毎日、新聞に書かれていた。

国立市中区は、本来、第二小学校の学区域だが、その頃、中2丁目・中3丁目の一部の地域が三小に通

う実態にあった。子供たちは桐朋学園の南側通りから大学通りを横切り、国立高校北側通りへと通学路が指定されていた。

ところが、富士見台団地が完成すると大学通りを始め街全体の交通量が増えて、朝、子供たちが、なかなか大学通りを渡れない状況が出てきた。私たち PTA は朝、大学通りの桐朋側に立ち子供たちに黄色の旗を持たせて渡らせるという手助けをし、その旗は国高側の道路筋の籠に置かれ、帰路は先生方が途中まで送ってくださり、一人ひとりに旗を持たせて横断させるという活動が続いたのである。この活動は三小 PTA と市役所とも論議が続いた。そして昭和 44 年 9 月の市議会に国高前に歩道橋設置を求める請願が出され、国高 PTA と桐朋学園中学校・小学校もこれに賛同して、請願は採択された。「歩道橋設置論争」はここから始まる。



歩道橋設置の是非を問う市民集会

【反対派】

昭和 44 年 11 月、339 名の署名を添えて歩道橋建設反対派の住民グループの人達が、石塚市長宛に陳情書を提出した。その主張は ①文教地区の象徴である大学通りに歩道橋をかけることは美観上よくない、②乳母車や老人、足の不自由な人は無視される(当時、国が建設していた歩道橋は階段式だった)、③道路は車優先となり、スピードが出せる・交通量も増える等の理由だった。市長は「将来、交通量がますます多くなる時に、学童の安全は市民全体で守っていきたい」と対応した(市報くにたち第 214 号)。しかしその後、文化人達の発言が続き、「歩道橋設置に反対する市民の集い」も結成され、街のあちこちで討論集会が開かれていた。また、多くのマスコミも論じ、この時代「歩道橋欲しい」運動はあっても「歩道橋いらない!」運動は日本中どこにもなかったから注目されたのであろう。

【推進派】

後に知ることになったのだが、昭和 44 年当時、東京都は 23 区を中心に学童通学路用歩道橋推進の通達を出しており、多摩地域でも建設推進の申請があれば、比較的早く予算がつく環境にあったことを。三小 PTA はとにかく市長、市議会が全面的に動き始めたことで、本当に私ども推進派は一日も早く歩道橋の完成することを願った。ところが反対派の声が大きくなるばかりで、三小 PTA は「何よりも生命尊重を優先に」との「建設賛成」の請願書を提出。昭和 44 年 12 月議会で採択され、事柄は都の側に移り建設はどんどん進む結果となった。

私も反対派の主張を理解できなくはないが、当面、目の前の子供達の安全を考え母親達と一緒に頑張った。乳母車・車いすも考えて、都内初のスロープ式のスタイルの様式になることも聞いていて嬉しかった。



工事中の歩道橋(昭和 45 年)

【あとがき】

大学通り歩道橋は昭和 45 年 11 月 19 日に開通し、子供達は少し長い道のりを楽しそうに渡っていた。しかし橋が完成しても、反対運動はいろいろな形で続いていた。そして街づくりの中で「景観」という概念は如何に考えるべきか。また「車優先社会」に対する答えはあるのか。国立歩道橋は今も黙って訴えている。



今年で国立会中の会が 50 周年を迎えるにあたり、記念事業として会員から文章を寄稿していただき文集としてまとめることになりました。

皆様のご寄稿お待ちしております。

今回は第 2 回として全 5 回で連載いたします。全号集めていただきファイルなどにおまとめいただくと素敵な文集が完成いたします。

国立会中の会 50 周年 PJ 係より

私が生まれたのは昭和 45 年(西暦 1970 年)である。その年に、あのお洒落な青山の高級スーパー「紀ノ国屋」が国立の大学通りにオープンした。そのころスーパーマーケットの存在に市民は驚き、そして喜んでいたらしい。

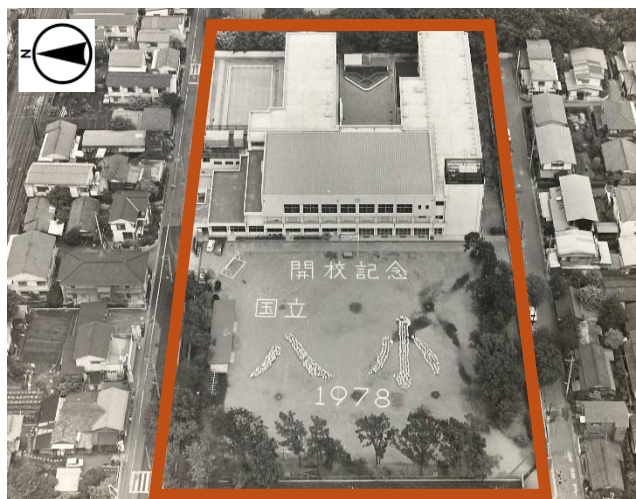
幼児期、雨が降ると長靴に水が入る道路ばかりだった。中地区の雨は東地区の方に流れ、自転車のペダルを数回踏むとその後は知らないうちに東の方向に進んだのは面白かった。公民館の裏通りには、オレンジの中央線と踏切、富士見通りの信号、そして一橋大学北門側の洋館があり、その頃珍しい映画の撮影がおこなわれた。自転車でエキストラに協力したことがあった。又、富士見通りの始まり『せきや』から公民館までの間に、何とおもちゃ屋が2件もあり、見に行くだけでも楽しかった。

我が家は 3 兄弟だが、その頃は 2~3 あるいは 4 人の兄弟姉妹はふつうで、一人っ子の家庭はほとんどなかった。官舎や社宅が多く、友達は沢山いた。兄弟の遊び場は一橋大学。鍵のかかる門は無く、何処からでも自由に入りが出来た。毎日夕方暗くなるまで、ほとんど大学が遊び場。樹に綱を掛けてターザンごっこをしたり、穴を掘って秘密基地や土団子を作ったり、夕刻にクヌギやコナラの大木に蜜を塗り、夜にカブトムシ採りに夢中になったのも懐かしい。又、大学周囲のフェンス横の土手にのぼり、投げ捨てられている瓶を拾って(缶やペットボトルはまだない)市役所に届けると換金され(今の資源物回収?)、子供会の資金にしていたらしい。

私は第二小学校に入学した。児童数が多くなり、パンク寸前だったため、昭和 53 年に第八小学校が新設され、それに伴い兄は4年生、私は2年生で転校することになる(八小では5年生が最高学年で一回生。6年生は)。そこは当時雑木林だった場所で、子どもが減ったら老人ホームにするとの話を聞いていた。プールや体育館を校舎の中に作り、校庭は対角線でやっと 50m走ができる小さな小学校で、運動会で駆け抜けるには校門に要注意だった。その頃、一クラス 45 人位だった記憶があるが、親は 40 人学級を求めて運動していたらしいので、今からは想像もできない。もちろん校歌は無く、小規模小学校は学校行事が多く、全員が知り



八小建設前の航空写真



(写真:第八小学校提供)

八小開校当時の写真

合いだった。父親の協力も多く、八小育成会では地域のソフトボールを熱心に指導してくれた。「チームで運動をする時には声を出し、相手に意思を伝える」ということを教えられた最初だと思う。育成会ソフトボール大会で、八小は優勝をした。又、1980年、都立国立高校が西東京代表で夏の甲子園に行くチャンスがあり、街中が応援モードになった。それにあやかり、兄と兄の友達と私は母に甲子園に連れて行ってもらい、益々野球好きになった。週のうち6日間(今は5日制ですが)は小学校に通い、日曜日は富士見台団地の野球グループに入れてもらい、少年野球に明け暮れ真っ黒に日焼けしていた。又、1982年立川昭和記念公園で初めて“試み”でマラソン大会があり、雨の中、八小のクラスメートと参加したこともある。地域のおじさんたちに手取り足取り鍛えられた経験が脳裏にあるのか、今、父親の立場で、毎週土曜日には二小を拠点に、地域の子どもサッカーチームのコーチをしている。その子ども達が大人になって、また次の世代に繋がると嬉しい。



八小創立当時の児童制作モザイク画(現在も八小の正面昇降口を飾る。)

手前の作品は旧国立駅舎の廃材で作った駅舎など(最近の児童制作) (写真:古川撮影)

東方面では国分寺市の黒鐘公園へ、南方面では多摩川の土手へ。矢川の田んぼや小川にもよく出かけ、ザリガニ釣りに夢中になったこともある。時が流れ、我が家の息子たちもザリガニ釣りをしていた。年を経ても清流が保たれている事は嬉しい。

子どものころ、中地域に限らず、東や西の方でも火事が多く消防車のサイレンの音をよく耳にしたが、最近では減ってきていると思う。

今では古い国立駅舎も移転され、見違えるほどに整備されたが、中央線高架になる前の2000年頃、放置自転車ワースト3はTVでも放映され、又、大学通りのマンションの景観阻害の件でも、この小さな街・国立が有名になってしまった事も思い出す。(最近では富士見通りの富士山の眺望阻害によるマンション解体ニュースで…)

息子二人は国立の公立小・中学校で育った。「ずっと国立に住みたい」と言うこの頃である。

写真出典:川島家、第八小学校提供以外の写真は郷土文化館所蔵